



楠元塾の様子です

令和元年10月10日

ヤマト福祉財団“第3期 弁当・配食サービス実践塾”開講

先日、YOKOBOSSが塾長を務めるヤマト福祉財団 楠元塾“弁当・配食サービス実践塾”で第2期生の卒業とともに、第3期が開講しました。日替わり弁当が中心となる配食サービスは、「おいしさ」・「安心」・「安全」をお届けする責任のある仕事。そして毎日コツコツと売上を積み上げていくリピートビジネスの典型です。楠元塾では、日々のメニューの管理や調理方法から、高齢者向け配食事業まで、PDCAサイクルを回して結果をだしていく塾です。2年間頑張ってきた2期生、これからの3期生の目標となるように頑張ってもらいたいです。



講師の佐藤久美子様

講師の西みよ子様

令和元年8月22日

重症心身障がい児者と地域住民の津波防災セミナー

8月22日、キリン福祉財団様よりいただきました助成金で津波防災セミナーを障がい福祉サービス事業所 はながしまで開催しました。地震大国日本列島、宮崎も南海トラフによる津波災害が心配されております。東日本大震災から8年が経ちましたがいまだに生々しい記憶です。講師には、その大きな地震を経験された独立行政法人国立病院機構仙台西多賀病院看護部長 佐藤久美子様と福島県の特定非営利活動法人あさがお 理事長 西みよ子様のお二人をお招きしました。水や食料も不足する中、肉体的にも精神的にも大変な思いをされた講師のお話を参加者はとても真剣に聞かれていました。私たちは“その時”に備えて何ができるのか、何を準備しておけばいいのかを今回のセミナーを通して考えました。私も避難場所の確認や非常食の設置などできることから始めていこうと思います。



キリン福祉財団の太田健様

多くの方にご参加いただきました



キャンパスクラブのみんな

倉岡小学校生徒さん
フラダンス

令和元年8月18日

はながしま夏祭り

8月18日、『障がい福祉サービス事業所 はながしま』で夏祭りを開催。今年もヤマト運輸の方々より焼きそばを焼くお手伝いやいつかの杜からはソフトクリーム等を提供していただきました。盛り上がりを見せた出し物として、キャンパスクラブは「UFO」「上を向いて歩こう」「恋するフォーチュンクッキー」のダンスを3曲披露し、倉岡小学校の生徒さんが躍る可愛いフラダンスや東花ヶ島自治会のひょっとこ踊りなど利用者さんたちも音楽に合わせてノリノリで楽しんでいました。また抽選会ではたくさんの豪華賞品が準備され大盛況でした。今回、ボランティアの方よりポーチ付きの素敵なハンドバックや小物入れをたくさん寄贈していただきましたのでハンドバックを抽選会の商品にしたところとても喜ばれました。こちらの寄贈された小物入れなどは今後、都城市役所のロビー販売などで販売する予定です。多くの方々にご協力いただき、たくさんの笑顔が見られた夏祭りでした。ご参加いただきましたみなさまには心より感謝いたします。



東花ヶ島自治会の
ひょっとこ踊り

寄贈されたハンドバックや
小物入れ



夕食会一緒したみなさまと記念写真

令和元年8月8日

台湾訪問～2日目の夕食会にて～

台湾最終日の夕食会は、日本・みやざき大使の戎義俊様・奥様と一緒しました。戎様は輔仁（ほじん）大学で一緒した徐重仁様とは親戚にあられる方で以前は、台湾の総領事館にあたる台北駐福岡経済文化弁事の所長をされていた方です。歴代所長としては最長で、戎様が九州で勤務された22年間を中心に日本での外交官生活の集大成として出版した「日本精神～日台を結ぶ目に見えない絆～」は重版するほど熱い支持を集められています。現在は、「日台には共通の『日本精神』がある。結びつきをさらに深めたい」と日本・宮崎のPRを広めていく活動をされており1年間に120回程、宮崎に来日されているようです。私達も今回の台湾訪問で得た経験や知識をもとに日本と台湾の福祉をいい方向性を持っていけるように、より一層のサービス向上に努めてまいります。



戎様とYOKOBOSSとブルーバニーカンパニー様



動画で学生さんがキャンパスの事を紹介



石鹸工場にて石鹸作り体験

動画で学生さんが
キャンパスの事を紹介



研修会の記念写真



大学前にて記念写真



財団法人心路社会福祉基金会様 丁寧な解説をしてくださった
温徳風様



焼き菓子工場
で作っているお菓子

デザインも可愛い
お菓子赤ずきん

不思議の国のアリスの
デザインも

令和元年8月6日

YOKOBOSS台湾視察2日目

2日目は、『財団法人中華民国唐氏症基金会様』へ訪問しました。こちらでは、就労に向けての訓練としてクッキー工場や石鹸作りを行っている施設です。今回YOKOBOSSは石鹸作りを体験しました。試行錯誤しながら台湾の障がいのある方々と一緒に作りとても良い思い出ができました♪午後からは輔仁大学へ行き、宮崎と台湾の福祉の情報交換をする研修会を行いました。台湾では有名人の徐重仁さんと奥様もお忙しい時間の中参加して下さい、キャンパスの会の研修では7月に体験に来られた台湾の学生さん達が話してくれました。とても詳しく説明され、他の参加者のみなさまにもキャンパスの事を知っていただけたのではないかと思います。私達も研修会で台湾の福祉現場の状況を知ることができました。今回の研修会で一緒にした徐重仁様ご夫妻は9月末、視察した財団法人中華民国唐氏症基金会は12月に今度は宮崎の福祉施設を視察するために来日されます。

令和元年8月5日

YOKOBOSS台湾視察1日目

7月の初旬に台湾の台北近郊にある輔仁（ほじん）大学の学生さんが福祉の経営を学ぶため、キャンパスの会に視察・体験に来られましたが、今回はYOKOBOSSが台湾を訪れ、台湾と宮崎の福祉の違い等についてディスカッションしました。移動を含め3泊4日での訪問になりましたが、視察1日目は障がいのある方々の自立に向けて焼き菓子工場やクリーニング工場での就労やさまざまな取り組みをしている『財団法人心路社会福祉基金会』様を訪れました。台湾の就労は日本を参考に始めたそうです。ここでは、可愛いパッケージのお菓子を発見しました♪主な収入源は寄付金で賄っておりますが、お菓子のパッケージのデザインも寄付で提供されているようです♪女性に喜ばれそうなデザインは大変人気で、お菓子は障がいのある方々が働いている焼き菓子工場で作っており味の種類も大変豊富でした。



講演をするYOKOBOSS (楠元洋子理事長)

令和元年7月12日

障がい者の働く場、パワーアップフォーラム

7月12日、障がい者の働く場、パワーアップフォーラムが福岡のエルガーホールで開催されYOKOBOSSが小倉昌男賞受賞者・第3回お弁当塾の講師として講演をさせていただきました。

- ・売り上げを伸ばしたい！
- ・弁当販売個数が増えない
- ・メニューが少なく、困っている
- ・利用者さんはどのように働くの？
- ・営業はどのようにしたら？ターゲットの決め方は？
- ・献立表が作れない、苦手
- ・厨房内衛生管理が守られていない
- ・原価がわからない（利益があいまい）

など、お弁当事業で困っていることがあればぜひ楠元塾にご参加ください。ただいま、「夢へのかけ橋」第3期弁当・配食サービス実践塾9月開講参加者を募集しています。日替わり弁当が中心となる配食サービスは、「おいしさ」「安心」「安全」をお届けする責任あるしごと。そして毎日コツコツと売上を積み上げていくリピートビジネスの典型です。この塾では日々のメニューの管理や調理方法から高齢者向け配食事業までPDCAサイクルを回して結果を出していきます。2年間で6回の開催です。ぜひ参加されたい方はヤマト福祉財団のホームページよりエントリーをお願いいたします。



皆、賞を取ることができました



金賞をとりました!!

皆で祝いの食事会♪

令和元年7月6日

アビリンピックまつり in みやざき2019

障がいのある方が日頃から培った能力で競い合い、職業能力の向上を図る目的で「アビリンピックまつりinみやざき2019」がポリテクセンター宮崎にて開催されました。キャンパスの会からはアイロン競技、フラワーアレンジに計6名が参加。アイロン競技は制限時間25分間で長袖と半袖のワイシャツ2枚をアイロン仕上げするというもので、参加した3名全員がそれぞれ、銀賞に田村幸助さん、奨励賞に狩川舞さん・大田笠真広さんが受賞しました。今年が第1回目の競技となるフラワーアレンジは競技時間1時間で、所定の花材を規程の寸法の半円球形を形作りながら活け、その仕上りを競うものです。参加した3名は、金賞に西留洋子さん、奨励賞に今村千穂さん・木村理香さんが受賞。7月13日に受賞の御祝いの食事会では、みなさんたくさんのお肉と美味しい食事を堪能されました。

令和元年7月4日

台湾の学生さんが宮崎に視察に来られました。

7月3日・4日の2日間、台湾の台北近郊にある輔仁（ほじん）大学の女子学生、リズさん・ベラさん・ミミさんの3人が福祉の経営と障がい者の社会参加について学ぶため、キャンパスの会に視察と体験に来られました。初日は加工センターでごぼうの皮むきに挑戦。リネン年見ではエプロンたたみの体験、生活介護なみきでは利用者さん達のチアダンスをご覧になりました。2日目はお弁当事業と、はながしま診療所の視察、その後ミーティングを行いました。学生さん達は「仕事がとても丁寧でレベルの高い方々が働かれていますと感じました。充実した2日間でした」と話されました。当日はNHK様の取材もあり、緊張した様子でしたが就労事業の視察が始まると熱心に写真やメモをとられていました。8月にはYOKOBOSSが台湾に訪れ、今回の視察や体験したことをもとに台湾の福祉を充実させるために2カ国の福祉の違い等を基金や施設の人達とディスカッションする予定です。



ごぼうの皮むきに挑戦中



エプロンたたみを体験



なみき職員と利用者さん達です。



宮崎県庁で集合写真♪

令和元年6月14日

宮崎県6月定例議会

生活介護事業所なみきの利用者さん、スタッフ15人で、宮崎県6月定例議会の傍聴に行ってきました。人口減少対策や福祉問題、農政問題、交通安全対策、空き家対策、防災・減災対策、環境問題、薬物問題、教育問題等々、この日は4名の議員が質問に立ち、宮崎県知事を始め関係者の方の答弁がありました。議員は課題を掘り起こし、今やらなければいけないこと、住民が生活しやすい宮崎を作るための質問をされています。私達が注目している医療的ケア児に適切に対応していくためには、「今後、市町村・保健・医療・教育等の関係機関とのネットワーク強化が大変重要になるものと考えている」という前向きな答弁をされる県議会のみなさんの言葉に、宮崎県の明るい未来を垣間見た気がして嬉しくなりました。



日浦美智江 様

内多勝康 様



講演中の様子

令和元年6月10日

生きるを支える講演会

医療の発達によって命が助かる子どもが増えている反面、障がいや病気のために、痰の吸引や人工呼吸器の使用といった『医療的ケア』が必要な子供が増えています。6月10日、その“生きるを支える”をテーマに講演会を開催しました。社会福祉法人訪問の家の顧問をされている日浦美智江先生に『みんなの笑顔に生かされて』の演題で、障がいのある方の笑顔が出る環境をどれだけ作ってあげられるか、障がいのある方と接する職員に求められるものなどの内容で講演していただきました。また元NHKのアナウンサーであり、もみじの家のハウスマネージャーをされている内多勝康様には『もみじの家が目指す社会』の演題でお話をしていただきました。医療的ケア児にあたる家族の負担軽減が課題となっている中、預かる施設は全国的に不足していて施設を利用したくても利用できない子どもが多くなっています。赤字経営の施設も多い中、預かり施設を増やすには生活介護などに伴う診療報酬の改定や、国や自治体の支援などが必要だと話されました。講演会を聞かれた障がいのあるお子さんを持つ保護者の方のご意見として「子供の障がいが高くケアが大変で、当事者や家族を支える社会を望みます。そのためには私達も声をあげていかなければ」という声や「親の高齢化が進み、子どもの介護ができなくなってしまった場合、安心して預けられる施設があればありがたいです」という意見が聞かれました。この講演会を通じて障がいのある方や家族の方に少しでも貢献できるように取り組んで参りたいと思います。

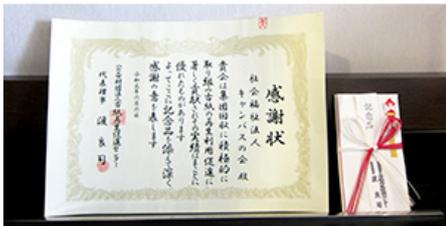
令和元年6月6日

優良集団回収団体として表彰を受ける

就労継続支援B型事業の一環として古紙回収を長年行っています。この度、公益財団法人古紙再生促進センター九州地区委員会様より、九州管内で表彰された8事業所に、キャンパスの会が選ばれました。6月6日、福岡市で授賞式が行われました。主催者挨拶の中で「日本の古紙再生率は95%で世界のトップであり、回収された古紙を無駄なく再生するのが製紙会社の使命であるが、点字用コピー等で使用される感熱性発泡紙（立体コピー紙）や臭いのついた紙などは古紙に再生できないので混ぜないでください」ということでした。そして「キャンパスの会が回収してきた古紙は回収量もさることながら質の良い古紙の回収率は最たるものがあります」とお褒めの言葉をいただきました。



受賞された団体の方と推薦者の方々です。



受賞した賞状です。



新工場の中の様子

令和元年6月6日

(株) ミヤチク様 ^っの 新都農工場の落成に伴う内覧会に出席

6月5日、国内最新鋭の食肉処理施設とさらなる輸出拡大を目指すミヤチク様の新都農工場の落成に伴う内覧会に出席させていただきました。ミヤチク様は『攻めの農業』をモットーに、黒毛和牛の生産地である宮崎県で宮崎牛のレストランをはじめ生産農場・加工工場・直売所など全施設で739名の従業員の方が働いておられます。新工場の完成により、今後は最新鋭で高度な衛生管理体制が求められるEUをはじめとする新たな国へも輸出可能になります。世界各国に輸出することにより『宮崎牛』や『宮崎ブランドポーク』等宮崎の味が外国人の食に繋がり、国内需要の拡大や宮崎の観光にも幅広く貢献することができるとのお話でした。キャンパスの会では、ミヤチク様のレストランにカット野菜を納品させていただいたり、工場内とレストラン関係の従業員の方々が着用されている白衣等をレンタルクリーニングで納めさせていただいております。これからもミヤチク様の発展にご協力できるよう微力ながら励んで参りたいと思っております。



公益財団法人ヤマト福祉財団
瀬戸薫様

参議院議員
自見はなこ先生

令和元年5月25日

感謝の集い、創立15周年式典

キャンパスの会はこの度、5月12日をもちまして創立15周年を迎えました。

5月25日、フェニックス・シーガイア・リゾートのひとつであるシーガイアコンベンションセンターにて『感謝の集い、創立15周年式典・記念講演』を開催し、多くのお客様がお祝いに駆けつけてくださいました。

式典ではご来賓の方々をはじめ、みなさまから心温まるお祝いの言葉をいただき、記念講演では5名の講師に貴重なお話をさせていただきました。

(公財)ヤマト福祉財団の瀬戸薫様の講演を聴いた参加者から「日本の運輸業界を牽引する企業であるヤマトホールディングスのトップのお話を聞く機会は貴重で大変勉強になった」と多くの声をいただき、続く参議院議員自見はなこ先生の講演では「障がいのある方に寄り添い、政策につなげていただける方と確信した」との感想が寄せられました。

(株)エブリイの岡崎裕輔様は30周年を迎えられたエブリイの生き残り経営から生産者との関係を築く産地開拓のお話や、障がい者の働く環境づくりなど生の経営のお話を、(社福)旭川荘の末光茂様からは児童福祉の父と言われる石井十次の歴史から天を敬い人を愛する人間尊重の精神『敬天愛人』を基本理念とされる旭川荘の誕生から現在に至るまでをお話いただきました。最後の衆議院議員野田聖子先生の講演では、ご子息の真輝君の誕生から現在の療育について話されました。先生は政治家として真輝君のような医療的ケア児など障がいのある子が学べる場を作る等为目标に活動なさっておりますが、真輝君も小さな体でいくつもの困難を乗り越え、今では先生の原動力となっているのがすごく伝わる講演でした。真輝君が壇上に上がった時には、講演されていた先生も優しい慈母の笑顔にかわられ会場が一瞬にして和やかになりました。後日、先生のブログを拝見したところ、講演のご褒美として真輝君は宮崎の動物園で大好きな乗り物等を楽しまれたようで、思い出をたくさん作ってもらえてとても嬉しく思います。

祝賀会では、お客さまに楽しんでいただく余興もありました。キャンパスクラブ・チアダンスチームの可愛いチアダンス、中島みゆきさんの名曲『糸』の手話を使った合唱はとても感動的でした。オカリナチームの演奏は一生懸命練習した『さんぽ』。最後に登場したのは、東花ヶ島公民館有志によるひょっとこ踊りです。少し早めの夏祭り気分で会場を盛り上げてくださいました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ去り、創立15周年を祝う記念式典も盛況の内にお開きとなりました。この節目を無事に迎えられましたのもみなさま方のご支援・ご配慮の賜ものと心より感謝申し上げます。今後とも利用者様やご家族のニーズに応えられるよう努めて参りますので、引き続きご指導ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。



株式会社エブリイ
岡崎裕輔様

社会福祉法人旭川荘
末光茂様



衆議院議員野田聖子先生とご子息真輝君



祝賀会での余興の様子



2019年5月9日

創立15周年記念講演のご案内

この度、キャンパスの会は5月12日をもちまして創立15周年を迎えます。この節目の年を無事に迎えることができましたのも、みなさまのおかげでございます。当日は政界・財界・福祉の分野から多彩な5名の講師をお招きし医療と就労分野関係の記念講演を開催致します。入場料は無料になっております。みなさまのご来場をお待ちしております。

日 付 2019年5月25日(土)

記念講演 14時00分～16時50分

場 所 宮崎県宮崎市山崎町浜山
シーガイアコンベンションセンター2階「ファウンテン」

公益財団法人ヤマト福祉財団 理事長 瀬戸 薫 様
【演題】 クロネコヤマトの「満足創造経営」

参議院議員 自見 はなこ 様
【演題】 「これからの障がい者医療について」

講 師 株式会社エブリイ 代表取締役副社長 岡崎 裕輔 様
【演題】 「キャンパスの会との出会いは財産」

社会福祉法人旭川荘 理事長 末光 茂 様
【演題】 「重症児(者)と医療的ケア児をインクルーシブな世界の光に」

衆議院議員 野田 聖子 様
【演題】 「真輝と生きること」



宮日会館で贈呈式が行われました

2019年4月17日

麒麟福祉財団様より津波防災セミナーを開催する助成金をいただきました。

地域に根付く福祉活動を支援するとして麒麟福祉財団（東京）様より助成金の贈呈式が4月17日（水）宮崎市の宮日会館で行われました。本県からは2団体が選ばれ、その中の1法人としてキャンパスの会の「南海トラフ地震に備えて重症心身障がい児・者と地域住民の津波防災のセミナー」計画を高く評価して頂きました。備えあれば憂いなしです。津波を体験された方のお話を聴き、何をどう準備できるのか勉強していきたいと思っております。



初めてのメイクに緊張気味

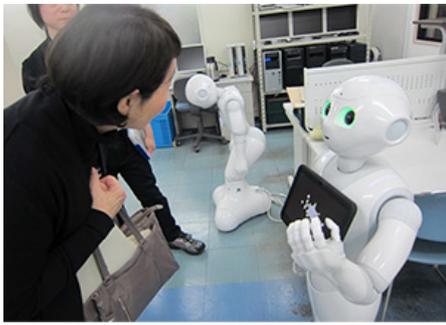
2019年3月3日

宮崎大学の学生さんがメイクとネイルのボランティアに♪

3月3日ひな祭りの日に、宮崎大学の学生さん10名と谷田貝教授がメイクとネイルのボランティアに来てくださいました。キャンパスの会の利用者さまは10名程参加。まず初めに、学生のみなさんが今回ボランティアをしようと思ったきっかけや想いを語ってくださり、その優しい気持ちに感動しました。利用者さまの中には、飲食店で働いている方もおり「普段メイクもネイルもしていない」と少し緊張しているようでしたが、学生さん達と会話しながらお顔も心も春色で、来た時と全く表情が違います。みなさんの笑顔がいつも以上に輝いておりました。女の子の笑顔は最高のメイクですね♪今回このようなイベントを企画してくださいました、宮崎大学の学生のみなさま、谷田貝教授に心より感謝いたします。ありがとうございました。



メイクで心もウキウキ



ぶろぼの様でロボットと対話するYokoBOSS



トモニーさま新年会、カラオケの様子

2019年1月31日

奈良県の社会福祉法人ぶろぼのさまを訪問、 岡山県のトモニーさまの新年会にも参加させていただきました。

1月31日に、奈良県の社会福祉法人ぶろぼのさまを訪問し、広報担当の青木さまの案内で各事業所を見学させていただきました。ぶろぼのさまでは、自立訓練事業・就労移行事業・就労継続事業・放課後等デイサービス事業・共同生活事業等、多岐にわたる事業が展開されています。

就労継続事業はITセンター・食堂事業・農業事業等があり、中でもIT事業は就労移行支援事業で一定の訓練を終え、職業準備性の整った人をA型で雇用する受け皿とされておりまして。たくさんのパソコンが用意され、パソコンが大好きで、ともすると引きこもりになりがちな利用者さん達の働く場となっています。

就労移行では、訓練として一般的な商取引をするとして服装もきちんとした会社務め用のスーツを着用し、朝礼を行い挨拶がきちんとできるように支援をされていました。放課後等デイは就労型で、軽度の障がいの方が多く、福祉サービスを受けるのが初めての人が多いと言います。ここでも、社会性を育むために挨拶を大事にしていると説明してくださいました。

利用者さま達は、卒業後の進路選択の幅を広げるためにバスや自転車を使い、自力で通っています。得意な事を伸ばして自信をつけ、苦手な事にチャレンジして達成する喜びを知る事を大切に、指示を理解できるか、作業に集中できるかなど、将来を見据えた支援をしているそうです。

翌日には、岡山の社会福祉法人旭川荘のグループであるトモニーさまの新年会に参加させていただきました。トモニーで働く障がい者のみなさまがとても楽しみにしておられる新年会とのこと、お一人おひとりが次々にステージに上がりカラオケを披露。最後は全員がステージに上がり、YMCAなどの曲に合わせて歌って踊り大変盛り上がった新年会でした。キャンパスのスタッフもステージに上がり、一曲飛び入りで歌い始めたところ、利用者さま2人が一緒に歌ってくださり、愉快な一時となりました。

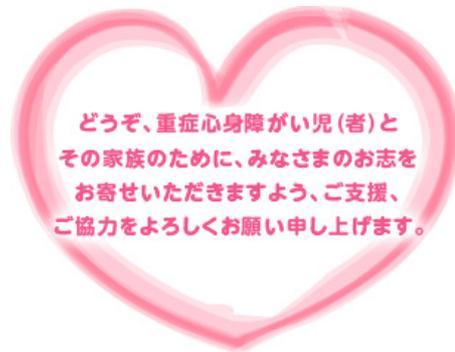
社会福祉法人ぶろぼのさま、トモニーさま、本当にありがとうございました。



2019年1月23日

ご寄付をいただきました。ご支援ありがとうございます。

この度、株式会社マルゼンさま、南九医療株式会社さま、ひめぎ包装さま、丸山商事さま、株式会社サンクスさま、プランニングハウスHARAさま、清山美恵さま、デーリィ販売株式会社さま、西いく子さまより、本会の「医療的ケアが必要な子どもと家族のための在宅支援に係る事業」へご寄付をいただきました。今回の寄付金は、重症心身障がい児（者）とその家族を対象に、医療サービスの提供、医療的ケアに対応した福祉サービスの提供、介護家族の精神的・身体的負担の軽減等を目指した「医療的ケアに対応した地域連携拠点施設」の開設資金、それに係る研究費として大切に使用させていただきます。みなさまのご厚志に心より感謝いたします。今後ともご支援・ご協力をいただきながら、事業発展のために努力して参ります。





最終報告会の様子

2019年1月21日

ヤマト福祉財団・障がい福祉助成事業 最終報告会

ヤマト福祉財団さまよりキャンパスの会の「障害福祉サービス事業所はながしま」が平成30年度の福祉助成をいただきました。この助成により行ってきた「重症心身障がい児（者）の望ましい支援や制度の構築のための調査事業」の最終報告会を1月21日に行いました。この事業は、昨今、頻繁に発生する水害や地震時の被災において、地域を拠点とした個別支援対策や新たな対応策等を明確にし、制度化へ繋げていくものです。昨年の5月から始まり約1年弱、講師を招いた講演会や、先進地の視察、宮崎県内調査、県外調査、4回にわたる委員会など、本当にあつという間でした。無事に終える事ができましたのも、ご協力いただいた宮崎大学教授、宮崎大学の学生、宮崎県立看護大学の学生、宮崎県障がい福祉課、宮崎県議会議員、歯科医師、小児科医師、インタビューに応じていただいた方々のお陰だと心から感謝しております。今回の調査・研究で、社会全体で向き合うべき課題が見つかりました。そこで、現状と環境について理解を深め、必要とする支援の内容と支えあいのネットワークづくりについて学ぶことを目的に、2019年6月に講演会の開催を計画しました。

今回の事業についての詳細は、下をクリックしてご覧いただけると幸いです。

▶ [詳しくはこちら](#)



ご協力いただいた委員の皆さまありがとうございました。



宮崎大学の池ノ上学長と「はながしま診療所」にて

2019年1月9日

宮崎大学の池ノ上学長が「はながしま診療所」へご来訪されました。

はながしま診療所では、現在、宮崎大学小児科から7～8名のドクターが交代で利用者さまの診療を引き受けてくださっています。今回、4月（予定）に大学病院内の小児科と産婦人科にピアカウンセラーを配置させていただき、障がいのある赤ちゃんを育てているお母さまの心に寄り添う支援ができればと考えています。宮崎大学医学部との連携が強まっていく中、宮崎大学の池ノ上学長が「はながしま診療所」の視察に来られました。池ノ上学長は昭和51年の鹿児島の子ちゃん誕生のニュースで一躍国民的話題になった、多胎児の命の重さ、奇跡の成長に関わられた主治医です。